

**製品名: ILK ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12579**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	42kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ILK
別名	ILK; ILK1; ILK2; Integrin-linked protein kinase; 59 kDa serine/threonine-protein kinase; ILK-1; ILK-2; p59ILK
遺伝子 ID	3611.0
SwissProt ID	Q13418
免疫原	抗血清はヒト ILK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 212-261

**背景**

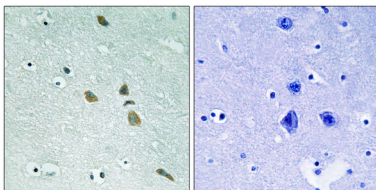
この遺伝子は、キナーゼ様ドメインと 4つのアンキリン様リピート配列を持つタンパク質をコードしています。コードされているタ

ンパク質は細胞膜上でβインテグリンの細胞質ドメインと会合し、インテグリンを介したシグナル伝達を制御します。このタンパク質の活性は上皮間葉転換において重要であり、この遺伝子の過剰発現は腫瘍の増殖と転移に関与しています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年6月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,ドメイン: PH様ドメインはホスファチジルイノシトールリン酸の結合に関与する。 ,酵素調節: PI3-K 依存的に、細胞フィブロネクチン相互作用とインスリンの両方によって、迅速かつ一過的に刺激される。これはおそらく PtdIns(3,4,5)P3 が ILK の PH 様ドメインに結合することによるものと考えられる。 ,機能: インテグリンを介したシグナル伝達を制御する受容体近位タンパク質キナーゼ。インサイドアウトインテグリンシグナル伝達のメディエーターとして機能する可能性がある。 ILK-PINCH 複合体を構成する接着斑タンパク質。この複合体は、インテグリンおよび成長因子シグナル伝達経路の収束点の1つと考えられている。細胞構造の調節、インテグリン基質への接着、および上皮細胞における足場依存性増殖に関与している可能性があります。セリンおよびスレオニン残基上のβ1 およびβ3 インテグリンサブユニットをリン酸化しますが、AKT1 およびGSK3B もリン酸化します。 ,PTM:セリン残基が自己リン酸化されます。 ,類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 ,類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,類似性:5つのANKリピートを含みます。 ,サブユニット:インテグリンのβ1サブユニットの細胞質ドメインと相互作用します。また、インテグリンのβ2、β3、および/またはβ5サブユニットとも相互作用する可能性があります。ANKリピートを介してLIMS1 およびLIMS2 と相互作用します。パルビンおよびおそらくTGFB1I1 と相互作用する。 ,組織特異性: 心臓で高発現し、次いで骨格筋、膵臓、腎臓で発現する。胎盤、肺、肝臓では弱い発現を示す。 ,

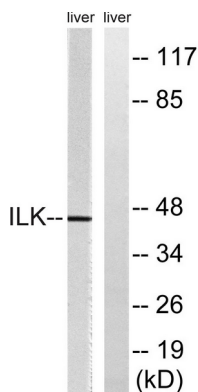
## 研究分野

PPAR;接着斑;子宮内膜がん;

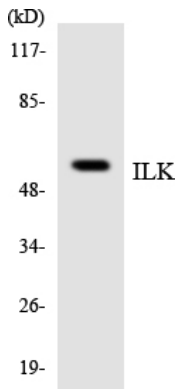
## 画像データ



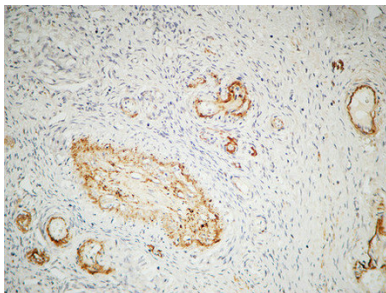
ILK抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



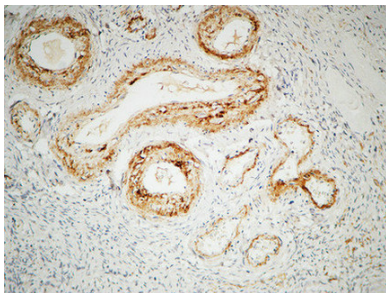
ILK抗体を用いたラット肝細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



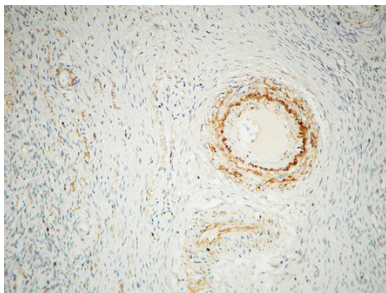
ILK 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウエスタンブロット分析。



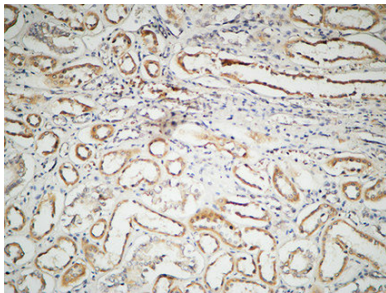
パラフィン包埋ヒト卵巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



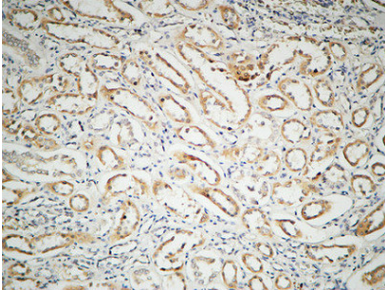
パラフィン包埋ヒト卵巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



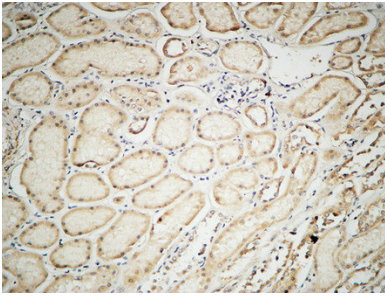
パラフィン包埋ヒト卵巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。